

Jionji

慈恩寺地区



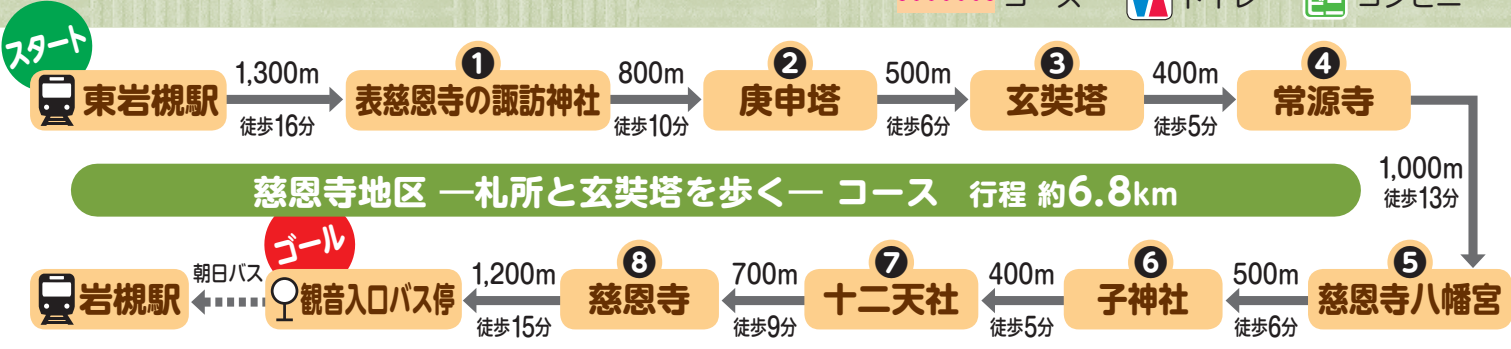
札所と玄奘塔を歩く

平安時代から続く古刹の大きさに圧倒されながら、坂東十二番札所にもなっている慈恩寺を訪ねてみませんか。また、玄奘塔には、「西遊記」で有名な玄奘三蔵法師の霊骨が奉安されています。



バス時刻のお問合せ

朝日バス
菖蒲営業所
TEL 0480-87-2161



慈恩寺地区

①表慈恩寺の諏訪神社

祭神は御穂須々美命みほすすみのみことで、かつては慈恩寺台地の舌状部に位置していましたが、東岩槻地区の開発により丘陵はなくなり、神社の所だけが小山のように残りました。神社の境内地は、縄文、弥生時代の遺跡包含地となっています。



現在の社殿は、昭和49年(1974)11月信州諏訪大社から改めて分霊され再建したものです。境内には、民俗学者の柳田国男が撰文した「表慈恩寺区愛宕神社遷祀記」の記念碑があります。

②庚申塔

表慈恩寺公民館として使用されている阿弥陀堂裏の十字路に庚申塔などの石造物が造立されています。一番古いものは、天和2年(1682)銘のもので、正面に「青面金剛」と刻まれた寛政11年(1799)銘の庚申塔の左側面には「武州埼玉郡川越領表慈恩寺村」とあり、当時のこの村が川越藩領であったことを知る事ができる貴重なものです。



③玄奘塔

西遊記で有名な玄奘三蔵法師げんじょうさんぞうほうしの靈骨を納めている塔です。昭和17年(1942)南京中華門外において発見された靈骨を分骨、日本に贈られました。当初は、東京の増上寺に安置されていましたが、東京への空襲が始まると蕨市の三学院に移され、ここも安全ではないというので慈恩寺へ安置されました。塔は、昭和25年(1950)3月20日完成、高さ約18mの層塔です。



なお、この靈骨はその後台湾の玄奘寺と奈良の薬師寺へも分骨されました。

④常源寺

曹洞宗のお寺で、慈眼山常源寺じやんかむににやらいといい、釈迦牟尼如来を本尊としています。寺の創建は江戸時代初期とされています。江戸後期の儒学者として有名な亀田鵬斎へんさいの書による扁額へんかくがあります。明応3年(1497)銘の一石五輪塔は、市指定文化財となっています。



⑤慈恩寺八幡宮

慈恩寺の高僧が、京都にある石清水八幡宮を勧進して慈恩寺の境内に奉祀したものと伝えられています。

明治の神仏分離によってその管理は慈恩寺から慈恩寺八幡講社に移り現在に至っています。



⑥子神社

祭神は大己貴命おおなむちのみことと市杵島姫命いちきしまのめで、6月12日が祭日です。創立は不詳ですが、明治時代になって子神社は裏慈恩寺村の鎮守となり、明治29年(1896)に村内の巖島社(天正12年(1584)の創建と伝える)を合祀しました。

また、境内にある石は明和5年(1768)に鹿室村の若者が挙げた35貫目(約130kg)のもので、



⑦十二天社

祭神は十二天で江戸時代に編纂された『新編武蔵国風土記稿』では慈恩寺3村の鎮守と記されており、現在は慈恩寺の管理となっています。境内には多くの石造物があります。



⑧慈恩寺

天台宗のお寺で、華林山最上院慈恩寺といえます。寺伝によると天長年間(824~834)の創建で、開山は慈覚大師じかくだいしです。寺号は、「開山の慈覚大師が修行した唐の大慈恩寺に風景が似ているので“慈恩寺”と名付けられた。」といわれています。

天正19年(1591)には徳川家康から寺領100石の寄進を受け、元禄7年(1694)の古図では約13万5千坪の境内と塔中66カ坊を有する大寺であったことが記されています。

また、坂東三十三ヶ所観音霊場の十二番札所となっています。



⑨日光御成道

日光御成道は、中世の鎌倉街道中道と称された古道に沿っていると考えられています。江戸時代の寛永期のころから歴代将軍が日光社参にこの道を利用することが慣例となり、将軍が通る道「御成道」と呼ばれるようになりました。

日光御成道は、中山道の本郷追分(文京区)を起点として岩淵、川口、鳩ヶ谷、大門、岩槻を経て、幸手で日光街道に合流する12里30町(約43km)の脇往還です。